

9月定例会一般質問通告一覧

平成25年9月定例会の一般質問は、9月9日、10日、11日の3日間行われ、14人の議員から29項目についての質問が市側に出されました。

一般質問については、録画映像がホームページからご覧になれます。実際の質問の様子、市側の答弁について、ぜひ動画でご覧ください。

また、同ホームページ内の『会議録検索システム』により、会議録の閲覧もできますのでご利用ください。

9月定例会分については、11月末頃にシステムから閲覧できるようになります。

茅野市の課題を問う

WEBで検索

茅野市議会

検索

	件 名
篠原啓郎	1 体験学習について
	2 教育現場の多様化について
樋口敏之	3 学校のパソコンを使った体験学習について
勅使川原はすみ	4 「いじめ防止対策推進法」施行にあたり市及び学校の対応について
	5 小・中学校の土曜日授業について
	6 パートナシップのまちづくり第2ステージでの現在の状況と課題
伊藤玲子	7 防災・減災への取組の現況について
	8 特定外来植物等の繁茂状況と駆除等に関する取組について
	9 認知症予防の充実を図るための対策について
山岸正衛	10 地球温暖化防止の取組について
	11 運動公園内の施設利用状況と今後の活用について
両角昌英	12 観光対策について
	13 市の生涯スポーツとしてゴルフを進めることについて
小池賢保	14 土砂災害防止について
	15 地縁団体について
野沢明夫	16 地域福祉推進活動について
	17 民間委託等外部化を進めることについて
伊藤 勝	18 市内公立高校（茅野高等学校）への行政の関わり方について
	19 非核平和事業の推進について
細川治幸	20 当市の学校教育現場が「3. 11」から学んだこと
	21 ふるさと納税について
宮坂武男	22 槻木の舞台を再現するイベントの進捗状況
	23 中心市街地の車道及び歩道の除雪について
堀 晃	24 消防団分団運営と団員確保について
	25 景観に配慮した良質な宅地造成事業補助金交付制度は活用されているか
小松一平	26 蓼科、白樺湖・車山、八ヶ岳エリアの観光活性化について
	27 憲法に対する考え方について
望月克治	28 子ども・子育て新システム関連法への市の対応について
	29 消費税増税による茅野市への影響について

編集室より

今年 は例年になく猛暑日が続いた夏となりました。高知県四十市では4日連続で40度を超える日が続いたり、また福岡市では、35度以上の猛暑日が連続17日間続いたり、いずれも観測史上初めてのことでした。

今年の冬が観測史上初めてとなる寒さ、又大雪とならないことを願っています。議会だより7号は、行政視察の報告を掲載しましたが、紙面に制約もあり十分に内容をお伝えすることができません。

しかし4月からリニューアルされた茅野市ホームページの中の茅野市議会の中に、詳しい内容を掲載しますので、ご覧いただき、茅野市議会に関心を寄せていただけたら幸いです。

議会広報部会

山岸正衛

●事業概要

子育て情報発信強化事業

- ① 子育て支援情報コーナー
- ② 子育てハンドブック
- ③ ポータルサイト

子育て力向上事業

- ① 子育てサロン
- ② 子育てcafe など。

●茅野市での展開の可能性

情報コーナー設置場所の民間事業者への拡大や医療機関へのPRなど、検討の価値があると思います。



倉敷市

子育て情報発信強化事業等について説明を受ける

■岡山県倉敷市

総合療育相談センター「ゆめぼら」の取組について

●視察目的

茅野市において、学習障害児や自閉症などの発達障害の子どもや家族を対象とした支援センターが、来年度にも開設される予定のため、茅野市の施策に反映出来る可能性を探る。

●倉敷市からの説明

相談機能のほか、乳幼児から成人に至るまでの一貫した総合支援体制を構築し、関係機関相互の連携・情報交換のためにネットワークの拠点として、平成20年1月に開所しました。

●茅野市での展開の可能性

茅野市とは人口規模や療育に関する専門機関の数など背景に違いはあるが、事業内容について茅野市の取組の参考になるものと考えられます。



■愛知県半田市

「はんだまちづくりひろば」の取組について

●視察の目的

茅野市に（仮称）市民活動センター設置の予定があるなかで、半田市の取組を視察することにより、施策に反映できる可能性を探る。

●半田市の説明

①市民協働事業の推進に関する事業を半田市企画部市民協働課と、はんだまちづくりひろばの両方で行っています。

②市民協働課では、主に自治会・地縁団体に関すること。まちづくりひろばでは、各種市民活動に関することを扱っています。

③それまでは、福祉系は社協のボランティアセンターが、市民活動のサポートは市の市民活動センターが支援してきました。しかし、行政職員は人事異動などがあり「まちづくり」に必要なコーディネート力や専門性などの担保が難しいことや、豊富な人脈・情報力、経験などは、社協職員の方が得意とする等の視点から、

「まちづくりひろば」としての統合となりました。

●茅野市への展開の可能性

半田市の強みは①行政が市民活動の推進支援をしてきたという実績があり、市が担うことのメリット・デメリットを検証しながら「まちづくりひろば」に移行していったこと、②社協のコーディネート力、情報力、ネットワークなどを、行政・市民に認めてもらえたこと（職員の知識・資質が高いのでは）、③市民参加を一番にうたっていることだと感じました。また、駅ビルに様々な機能を持たせるという取組は、ベルビアの今後の活用方法の参考になるのではないのでしょうか。



「はんだまちづくりひろば」にて